

2019年度
中間決算ダイジェスト

2019年11月12日



2019年度 中間決算ハイライト



【連結】 (百万円)

	2018年中間期	2019年中間期	前年同期比	増減率
経常収益	4,455	4,487	+31	+0.7%
経常利益	580	635	+54	+9.4%
親会社株主に帰属する中間純利益	496	611	+114	+23.1%

【単体】 (百万円)

	2018年中間期	2019年中間期	前年同期比	増減率
経常収益	4,409	4,442	+33	+0.8%
コア業務純益	172	97	74	43.4%
経常利益	579	638	+58	+10.2%
中間純利益	495	614	+118	+23.9%

連結決算は、4期ぶり増収・増益となりました。

- ・経常収益 4,487百万円 (前年同期比 +31百万円)
- ・経常利益 635百万円 (前年同期比 +54百万円)
- ・親会社株主に帰属する中間純利益 611百万円 (前年同期比 +114百万円)

単体決算は、4期ぶり増収・増益となりました。

- ・経常収益 4,442百万円 (前年同期比 +33百万円)
- ・コア業務純益 97百万円 (前年同期比 74百万円)
- ・経常利益 638百万円 (前年同期比 +58百万円)
- ・中間純利益 614百万円 (前年同期比 +118百万円)

【自己資本比率(バーゼル)】

	2018年9月末	2019年3月末	2019年9月末	前期末比
連結自己資本比率	8.12%	7.70%	7.85%	+0.15%
単体自己資本比率	8.11%	7.70%	7.84%	+0.14%

【不良債権比率(金融再生法開示債権比率)】 (百万円)

	2018年9月末	2019年3月末	2019年9月末	前期末比
金融再生法開示債権額	11,773	12,012	11,458	554
不良債権比率	3.83%	3.90%	3.78%	0.12%

・連結自己資本比率(速報値)は前期末比0.15%上昇し、7.85%となりました。

・不良債権比率(金融再生法開示債権比率)は前期末比0.12ポイント低下の3.78%となりました。

2019年度 単体中間決算の概要



(単体) 損益概況

[単体]	(百万円)		
	2018年 中間期	2019年 中間期	前年同期比
業務粗利益	2,784	3,125	+ 340
(除く債券関係損益)	2,908	2,908	+ 0
うち資金利益	2,896	2,900	+ 4
うち役務取引等利益	104	130	+ 25
うち債券関係損益	123	216	+ 339
経費()	2,735	2,811	+ 75
実質業務純益(1)	48	313	+ 265
コア業務純益(2)	172	97	74
業務純益	48	313	+ 265
臨時損益	530	324	206
うち株式関係損益	0	1	+ 2
うち不良債権処理費用()	-	-	-
うち貸倒引当金戻入益	701	363	338
経常利益	579	638	+ 58
特別損益	43	2	+ 40
税引前中間純利益	535	635	+ 99
法人税等()	23	8	15
法人税等調整額()	16	13	3
中間純利益	495	614	+ 118
与信関連費用() (3)	718	375	+ 343

業務粗利益（前年同期比 + 340百万円）
・債券関係損益および役務取引等利益の増加等により、2018年中間期比増加いたしました。

経費（前年同期比 + 75百万円）
・人件費は減少したものの、システム移行に伴う物件費の増加等により、2018年中間期比増加いたしました。

コア業務純益（前年同期比 74百万円）
・経費の増加に伴い、2018年中間期比減少いたしました。

与信関連費用（前年同期比 + 343百万円）
・お取引先の業績回復に伴い、貸倒引当金戻入益を計上したものの、戻入益自体は2018年中間期比減少いたしました。

経常利益（前年同期比 + 58百万円）
・業務粗利益の増加等により、2018年中間期比増加いたしました。

中間純利益（前年同期比 + 118百万円）
・経常利益が増加し、税金費用も減少したことにより2018年中間期比増加いたしました。

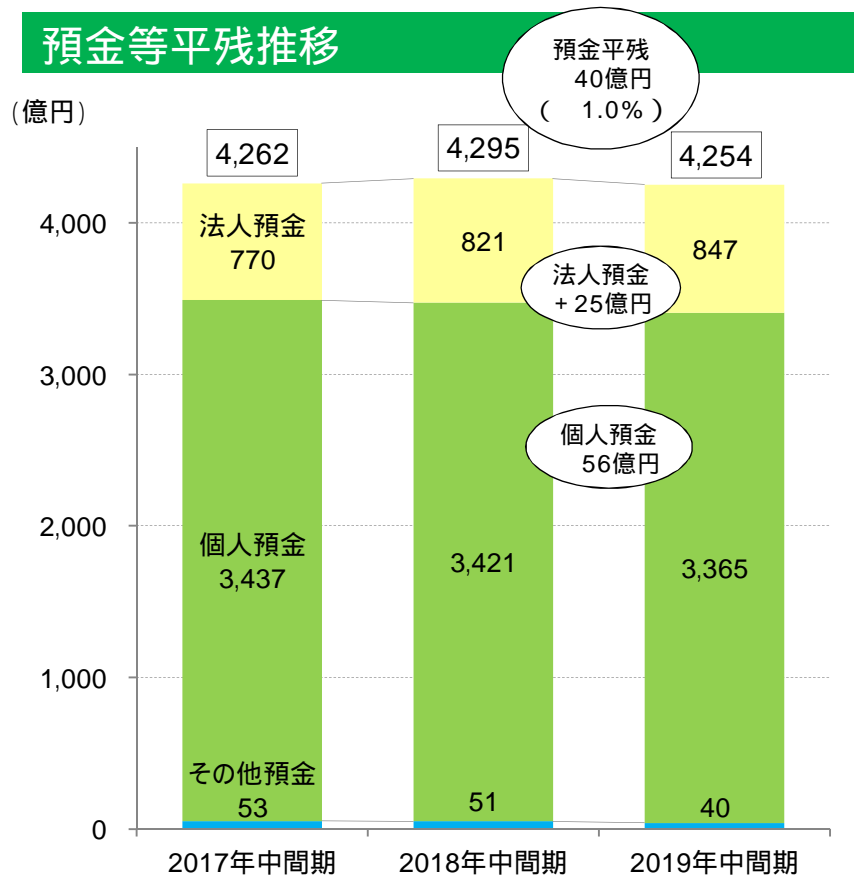
1. 実質業務純益 = 業務粗利益 - 経費
2. コア業務純益 = 業務粗利益 - 債券関係損益 - 経費
3. 与信関連費用 = 与信に係る費用のことで、主に債権の回収が不可能となった場合の「償却額」や債権が劣化したことで積み増す「貸倒引当金繰入額」を示す。
与信先の業績回復に伴い、貸倒引当金の取崩を行う場合は「収益」として計上され、表示は戻入益を示す。

預金（平残）・預かり資産

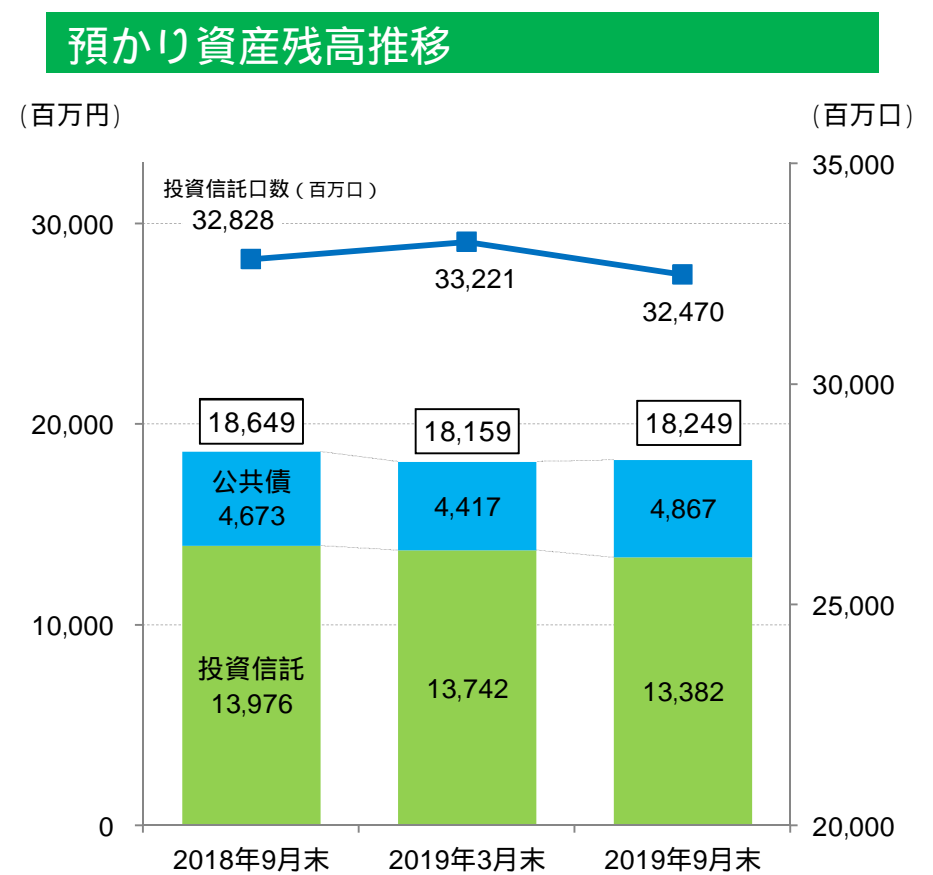


・預金平残は、法人預金は増加したものの、個人預金等が減少したことにより、2018年中間期比40億円減少し、4,254億円となりました。
 ・預かり資産残高は、公共債が増加したことにより、2019年3月末比増加し、182億円となりました。

預金等平残推移



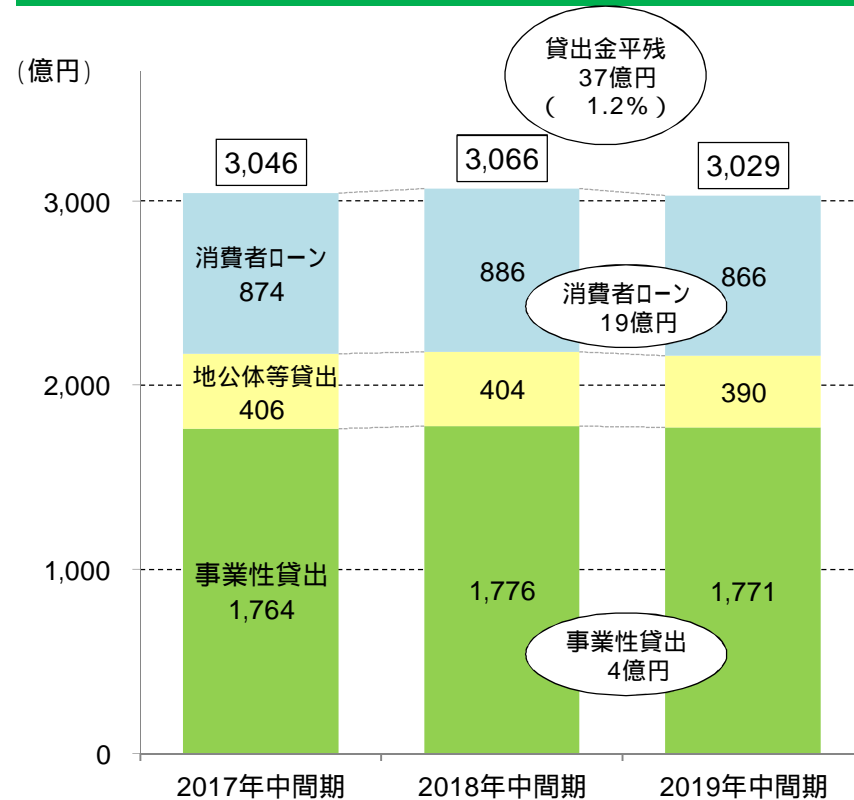
預かり資産残高推移



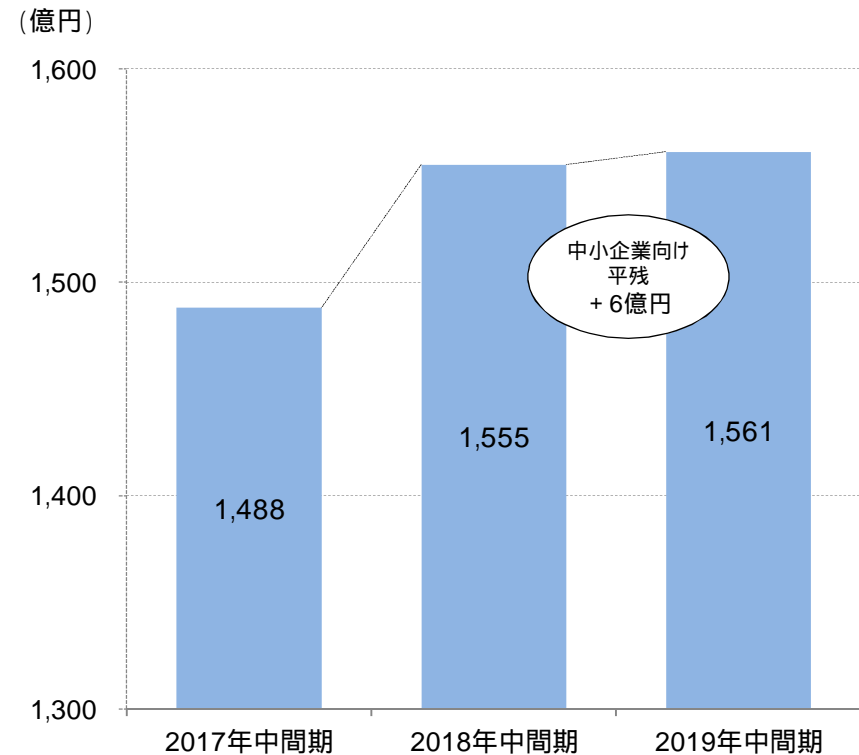
貸出金（平残）

- ・ 貸出金平残は、事業性貸出および消費者ローンがともに減少し、2018年中間期比37億円減少の3,029億円となりました。
- ・ 中小企業向け貸出平残は、2018年中間期比6億円増加し、1,561億円となりました。

貸出金平残推移



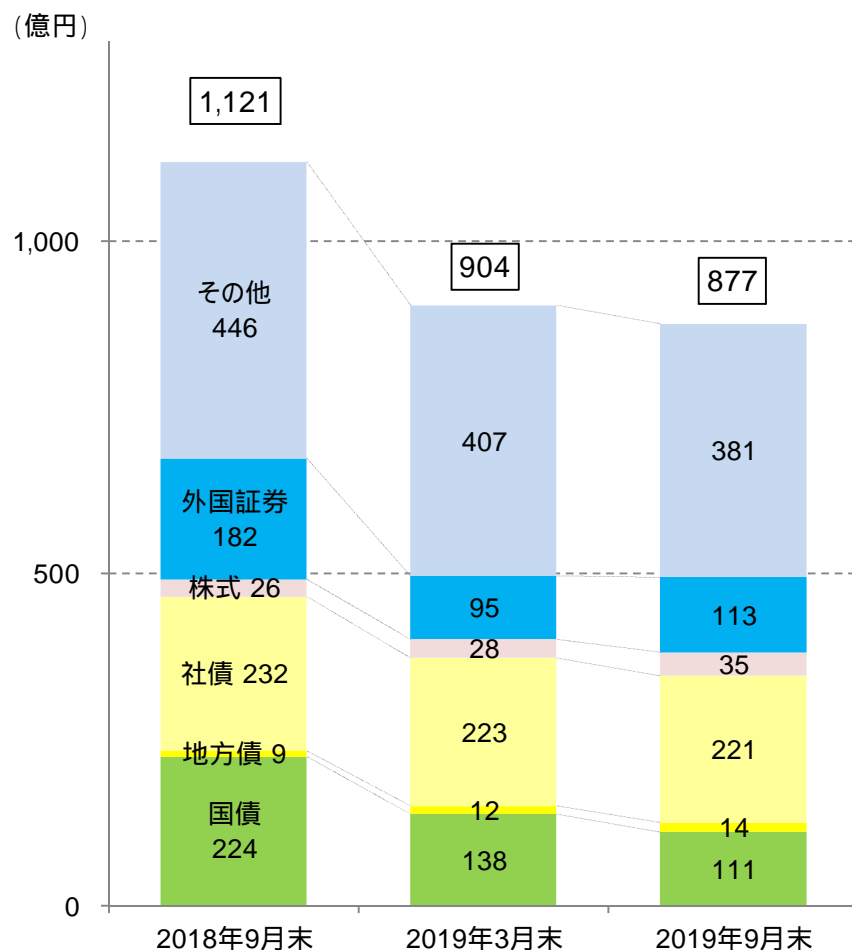
中小企業向け貸出平残推移



有価証券

・有価証券評価損益は、株式及びその他の評価益が増加し、2019年3月末比7億77百万円増加の26億59百万円となりました。

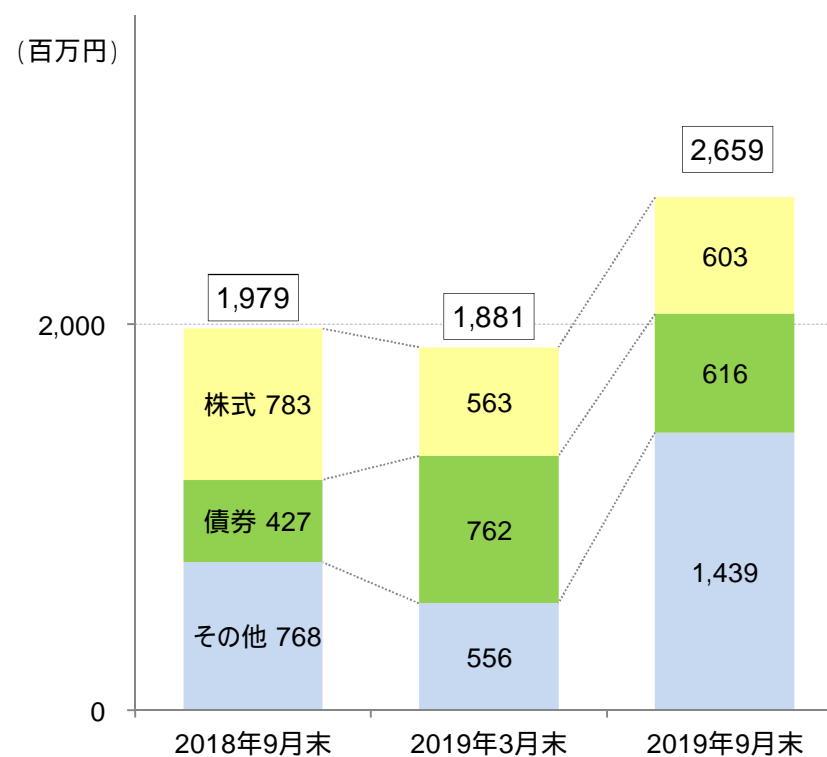
有価証券残高推移



有価証券評価損益推移

(ご参考)

日計平均株価(円)	24,120	21,205	21,755
10年債国債利回(%)	0.13	0.10	0.22
円・ドル(円)	113.5	110.7	107.9

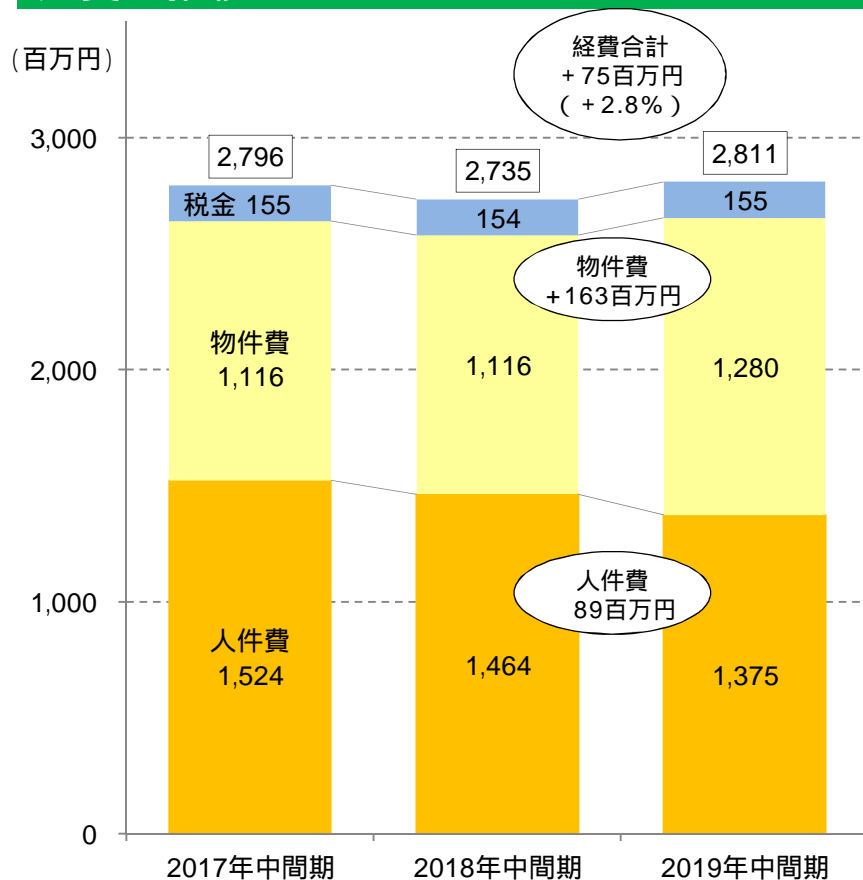


経費 / 不良債権の状況

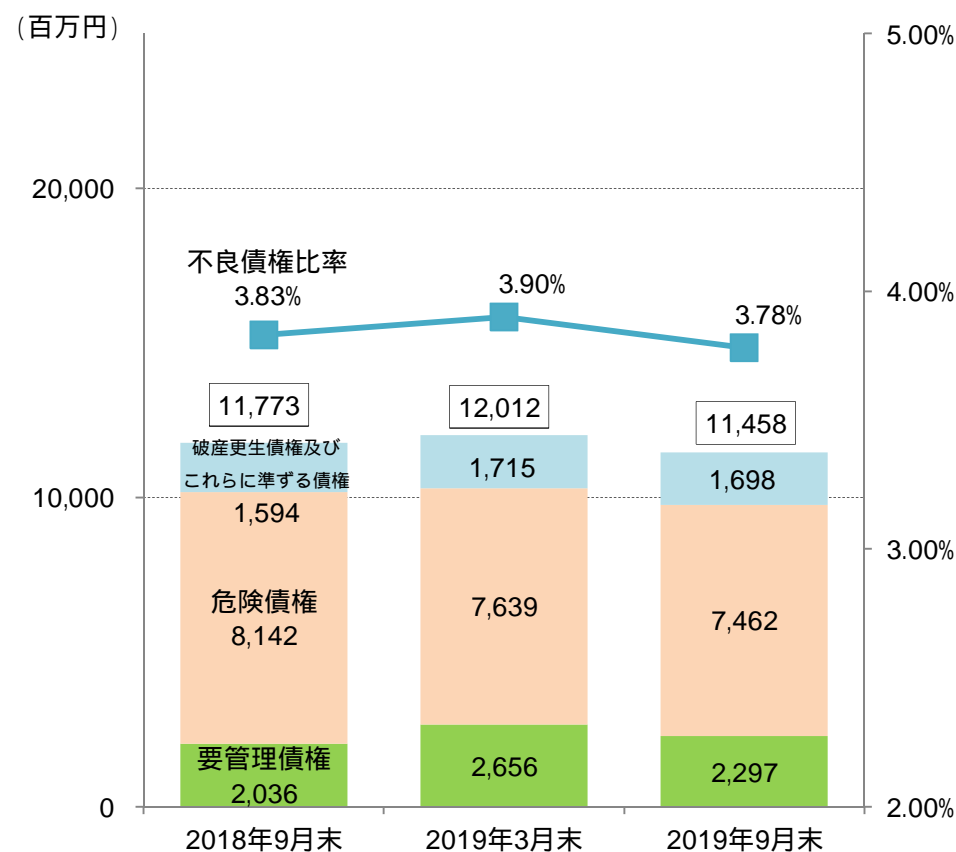
・経費は、システム稼働に伴う物件費の増加に伴い、2018年中間期比75百万円増加し、28億11百万円となりました。

・不良債権比率は、お取引先の業況改善等により金融再生法開示債権残高が減少したことにより、2019年3月末比0.12%低下し、3.78%となりました。

経費の推移



金融再生法開示債権の推移



2019年度 通期業績予想



・2019年度通期の連結業績予想は、経常収益75億円、経常利益3億円及び親会社株主に帰属する当期純利益3億円を見込んでおります。
 (2019年5月14日に公表いたしました予想と変更ございません。)

【連結予想】 (百万円)

	2018年度	2019年度	前期比	増減率
経常収益	9,022	7,500	1,522	16.9%
経常利益	777	320	457	58.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	259	300	+41	+15.8%

【単体予想】 (百万円)

	2018年度	2019年度	前期比	増減率
経常収益	8,927	7,400	1,527	17.1%
経常利益	764	320	444	58.1%
当期純利益	247	300	+53	+21.5%

【1株当たり予想配当金】

	年間	うち期末
配当予想	3円00銭	3円00銭

連結経常収益

・有価証券売却益の減少等により2019年3月期比減収を見込んでおります。

連結経常利益

・新勘定系システム稼働に伴う償却負担に加え、有価証券関係損益の減少等により2019年3月期比減益を見込んでおります。

親会社株主に帰属する当期純利益

・連結経常利益が減少するものの、新勘定系システム構築費用が不要となることから、2019年3月期比増益を見込んでおります。

1株当たり予想配当金

・当初予想と同様、1株当たり3円を予定しております。